

日々成長していく大学へ

大学では、多くの部活動が活躍しております。今年度は、女子硬式野球部が第9回全日本大学女子硬式野球選手権高知大会にて至学館大学（愛知県）に競り勝ち見事に優勝を飾りました。また、8月7・10日に開催されたダンスの甲子園「全日本高校・大学ダンスフェスティバル（神戸）」にて、上位4つのうち1つに贈られる「神戸市長賞」を受賞しました。学業においては、令和3年度からスタートした「資格取得講座」が本年度も実施され、夏休みを返上して5月から10月までと長期間に渡るスケジュールの中、日々勉学に励んでおります。また、公務員を目指す学生も多く、本学生を対象とした公務員模擬試験を280名が受験しました。他にも2年生を対象とした講座として、公務員プログラム夏季集中講座を実施しました。

大学施設も陸上競技場のタータンを改修し、陸上競技の部員たちは新たな気持ちで練習に励み、競技会でもよい結果が出ることが期待されます。

本年度も大学祭を10月21日、22日に行う予定となっております。思い出が詰まった母校に足を運んでいただき、変わりつつある大学を見ていただくとともに、卒業生の皆様にお会いできたら嬉しく思います。

活躍する同窓生



校友会会長 高井 勝弘

新型コロナウイルスの感染症法上の分類が5月8日から、季節性インフルエンザと同じ「5類」に引き下がりが、週末になると多くの方が外出をされ、街には活気が戻りつつある中で、本学の同窓生も活躍しており、大変うれしく思います。昨年度校友会成績優秀賞にて特別賞を受賞された、ボクシングの堤聖也選手が日本王座3度目の防衛に成功しました。また、令和4年度卒業の白川真生さんが、東南アジアの東ティモールに体育教師として就任されたと新聞記事に掲載されるなど、多くの同窓生が、活躍されております。

今年度も、大学祭「HUI Festa」にて校友会では、同窓生を招き講演会を行う予定です。皆様のご参加をお待ちしております。また、サロンも設置いたしますので、交流の場としてご活用ください。

校友会では、一人でも多くの方が活躍できるように支援をしたいと考えておりますので、今後とも皆様からのご協力をお願い申し上げます。



第16号

2023年9月発行

学校法人 佐藤栄学園
平成国際大学 校友会会報

令和5年秋

平成国際大学 学長 柏木 俊彦



今年の夏は、全国的に異常な暑さと局地的に異常な集中豪雨がありました。ハワイのマウイ島の火災を含めた北米や欧州の火災や洪水も天候異変を原因とする災害と言ってもいいと思います。これらの天候異変による災害が自然法則に従った必然的現象であれば、防災と災害救助により力をいれるしかありませんが、この天候異変が人為を原因とするものであれば人類が知恵を絞って天候異変を防ぐ道筋をつけることが可能でしょうし、必要なこととなります。

このような天候異変が毎年続くのであれば、日本は四季島ではなく二季島になってしまう世界のもっと変わった状態になってしまいうでしょう。自然の態様がかわれば人間を含めた生物のありようにも影響があるはずで、空を見上げながら、地球環境に対して、私たちの責任の範囲はどこまで及ぶのか、誰に対して特に未来世代にも及ぶのか、義務の問題なのか道義の問題なのか、考えていると暑苦しさが増します。涼しい秋の到来が待たれます。

平成国際大学卒業生の社会的存在感を高める道

校友会顧問 副学長 浅野 和生



福島原発の「処理水」の海洋投棄が8月24日から開始された。2011年に爆発事故を起こした福島第一原子力発電所の冷却水を、大幅に希釈して、放射性物質の濃度を下げて、海に投棄する作戦である。科学的には、その海水中を泳ぐ魚、カニ、貝を人間が食して害がないレベルになる。ありがたい「母なる海」の懐の深さである。

本学が平成8年に開学してからこの春までに24期の卒業生を送り出し、合計はざっと50000人となった。ただ50000人が、バラバラの地域、それぞれの職種に散って、わが卒業生はどこにいるのか行方不明、低濃度の処理水のごとくになる。何分、登録法人数は東京都だけで56万社に達する。だから、わが大学の存在感を世に示すには、地域、業種、企業を絞って就職した方がよい。埼玉県警、警視庁、埼玉東部消防組合、埼玉県内各種教員、加須市・久喜市職員、さらに加須市・久喜市商工会や埼玉経済同友会の企業など、少し固まっただけ就職できるとよい。密度が高くなれば存在感を発揮できる。埼玉県警や警視庁はすでに採用試験合格数でそれぞれ1000をはるかに超えている。そろそろ存在感が出るころか…。